

わくわく古代チャレンジ2020

とっておき埋文講座①



はじめに

わくわく古代チャレンジ事業では、毎年夏休みに県内の小学生とその保護者を対象として「ふるさと考古学教室」「まいぶん研究室」「こども考古学クラブ」を実施しています。



本事業では、埋蔵文化財に関する体験活動を通して、古代に生きた先人の暮らしや知恵にふれ、考古学や文化財への関心を高めることを目的としています。また、子供たちが夏休みに取り組む自由研究への一助ともなっています。

ふるさと考古学教室

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大による状況を踏まえ、開催を土日祝日とし、1回の組数を少なくして実施しました。また、日程の事情で昨年度よりも体験メニューも少なくしました。様々な制限がある中でしたが、昨年度の応募数を大きく上回る応募があり、嬉しい気持ちになったと同時に当センターの存在意義を強く感じました。

各教室の活動内容を紹介します。

○刀鍛冶を体験しよう (ペーパーナイフ)



800°C近くまで熱した五寸釘を叩いてペーパーナイフをつくります。「鉄は熱いうちに打て」の言葉どおり、熱しては叩き、熱しては叩きと繰り返し、釘を伸ばして刃を作ります。形づくられた熱い釘は、水に入れて冷やす「焼き入れ」を行うことで強度を高めます。最後に砥石で刃を研ぎ、柄を作つて仕上げます。

作ったペーパーナイフの試し切りをすると、あまりの切れ味の良さにたくさんの参加者から驚きの声が上がりました。

○古代の鏡の鋳造を体験しよう (錫鏡)



溶かした錫を錫物砂で作った型に流し込み、冷やして固めて作ります。今回つくる鏡の原型は、射水市の上野遺跡から出土した弥生時代の鏡です。この鏡の中心には、花のような内側に向いた6つの扇が連なった文様（内向花文鏡）があります。冷やして固まった鏡の表面を砥石や耐水ペーパーで磨き、仕上げます。

作品は顔を映すためだけでなく、飾りや身を守るためのお守りとしても使えるので、参加者にとても好評です。

○藍染を体験しよう (藍染エコバッグ)



エコバッグにビー玉や洗濯ばさみ、

輪ゴムなどを使って模様付けをします。それを藍液に漬け込み、染色すると、鮮やかな色の中に白ぬきの模様が表れます。模様付けの仕方や藍液の濃度、藍液の揉み込み具合によって作品の風合いが変わるので、手作り感が楽しめる活動になります。

藍の色は「ジャパン・ブルー」と呼ばれ、日本人に親しまれている色であるとともに、日本を代表する色として世界中に知られています。また、エコバッグは今まさにトレンドです。作られたマイ・エコバッグをぜひ活用していただけたらと思います。

○ガラスの装飾品を作ろう (ガラス玉)



ガスバーナーで溶かしたガラスを鉄芯に巻き付ける技法で小玉やまが玉を作ります。ガラスは単色だけでなく混色したり、別の溶かしたガラスで玉に模様付けしたりすることで、様々なガラス玉を作ることができます。

ガラス棒を持つ人と溶かしたガラスを鉄芯に巻き付ける人と、親子で息をぴったり合わせて丁寧に作品を作る姿が見られました。様々な形や模様の美しいガラス玉が作られ、素敵な装飾品に仕上りました。

○大型まが玉づくりを体験しよう (滑石大型まが玉)

まが玉づくりは当センターの看板体験メニューの一つとして行っていますが、この教室では通常体験で使う石の2倍サイズのものを使います。まが玉づくりの醍醐味である穴あけの作業をし、デザインに合わせて荒削りをして形を作っています。最後は耐水ペーパーで磨くことで、表面がツルツルになり、石の素材模様も浮かび上がって



美しいまが玉になります。

使用する石のサイズが大きい分、時間も労力も倍かかりますが、できたときの喜びもひとしおです。首飾りとしてだけでなく、カバンにぶらさげるアクセサリーにされる方もいました。また作りたくなりましたら、ぜひ通常体験でのご参加もお待ちしています。

まいぶん研究室

当センターでは、毎年夏休みに来館する小学生やその親子を対象にまいぶん研究室を開設しています。今年度も考古学や文化財について関心を高めたり調べたりできるコーナーを設置しました。各コーナーの内容を紹介します。

○「タッチ・ザ・DOKI」と 遺跡地図閲覧コーナー



市町村・校区別の遺跡地図とふれる標本箱「タッチ・ザ・DOKI」を置いて自由に調べられるコーナーです。自分が暮らしている近くに遺跡があり、土器が出土していることを知ることで、考古学への親近感がわくようにしました。

○「記念物100年」展

文化庁事業「記念物100年」展に参加し、パネル展示をしました。記念物

の定義や代表的な「史跡」「名勝」「天然記念物」を紹介しました。



○記念物で遊ぼう！ ペーパークラフトにチャレンジ！



竪穴式住居や高床式建物、柳田布尾山前方後方墳を作ることができるペーパークラフトを用意しました。楽しく作品を作りながら各建造物の特徴について知ってもらえるようにしました。

○フォト・スポットコーナー

奈良・平安時代のシチュエーションで写真撮影ができるコーナーです。傍に置かれてある須恵器大甕は迫力満点。この甕には、何と平均的なお風呂の容量の約1.3倍の270㍑も水が入ります。インスタ映えにも一役買いました。



こども考古学クラブ

例年夏休み期間中に実施していますが、今年度は10月4・11・18日に実施予定です。「目指せ未来の考古学者！」をキャッチフレーズに小学6年生限定で募集したところ、10名の参加が決まりました。内容は歴史や文化財についての学習や、土器の実測・拓本・復元体験を予定しています。

おわりに

コロナ禍において、どれだけの方が参加・ご来館くださるか心配でしたが、結果、多くの方々にご来館いただきました。また、ふるさと考古学教室の参加者アンケートでは、「展示解説を聞き、考古学への関心が高まりました」「夏休みに親子の楽しい思い出ができました」など、嬉しいお言葉をたくさんいただきました。これらを糧にして、今後も県民の皆様に喜んでいただけるような企画・運営に努めていきます。

(小嶋 剛)

